

# 最近の消費・輸入動向等について

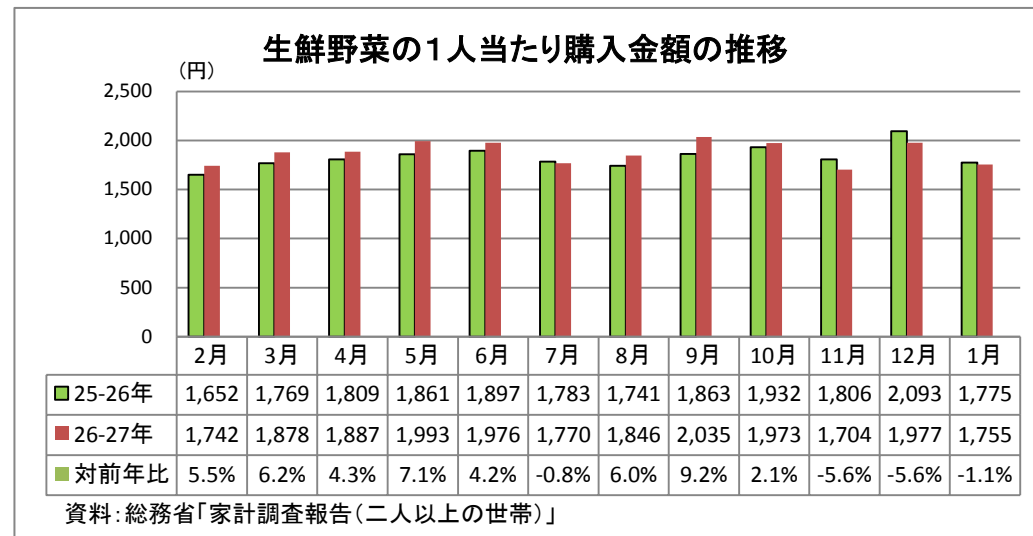
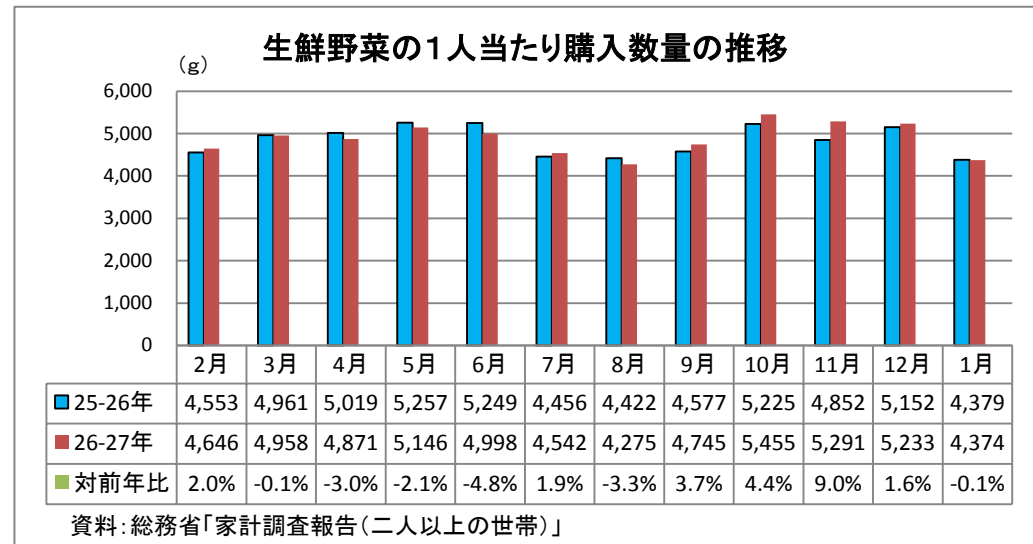
## 《 目 次 》

1. 家計における購入、支出動向等	
(1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入	P. 1～3
(2) 生鮮野菜の1人当たり年間購入	P. 4～5
(3) 外食の支出	P. 6
(4) 野菜の摂取量	P. 7
2. 小売の販売動向	
(1) チェーンストア	P. 8
(2) スーパーマーケット	P. 9
(3) 品目別小売価格	P. 10
3. 外食の市場動向	P. 11
4. 輸入の動向	P. 12～13
5. 春野菜主要品目の主産県別生産・出荷等	P. 14

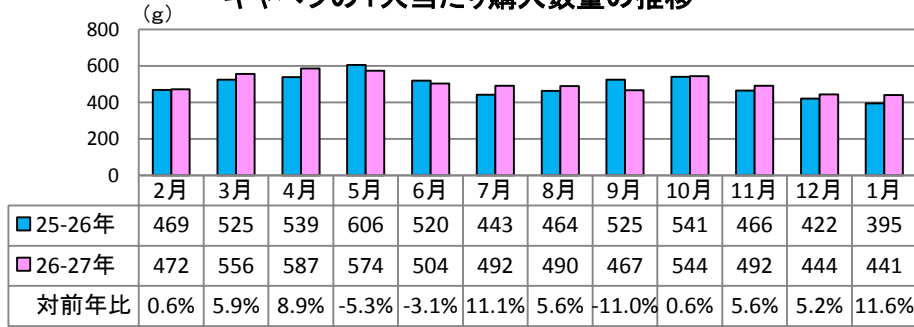
## 1. 家計における購入、支出動向等

### (1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入

- 生鮮野菜の購入数量については、平成26年2月から8月までは、2月及び7月を除き、価格が安値であった前年を下回って推移した。
- 8月は、北日本や東日本を中心に平均気温が高く暑さ等による消費減退や価格も高かったことから大幅に減少した。
- 9月以降、価格が大幅に高騰した前年の購入数量を上回って推移した。これは、前年が長雨や台風、低温の影響により、生育不良や遅延などが生じたためである。
- 生鮮野菜の1人当たりの購入金額は、おおむね1,800円前後で推移している中、前半は前年を上回っている月が多いものの、後半は野菜価格の高騰などによる消費減退により前年を下回る月が多かった。
- 2月以降、特に北海道産のたまねぎが不作により価格が高騰したことなどから前年を上回った。
- 5月及び6月は、だいこんなど一部の品目の価格が高値傾向であったことから前年を上回った。
- 8月及び9月には、はくさい、キャベツ、たまねぎなどの価格上昇により前年をかなり上回った。
- 11月以降は、好天と適度な降雨により順調に生育するなど、野菜価格が大幅に下落したことにより前年を下回って推移した。

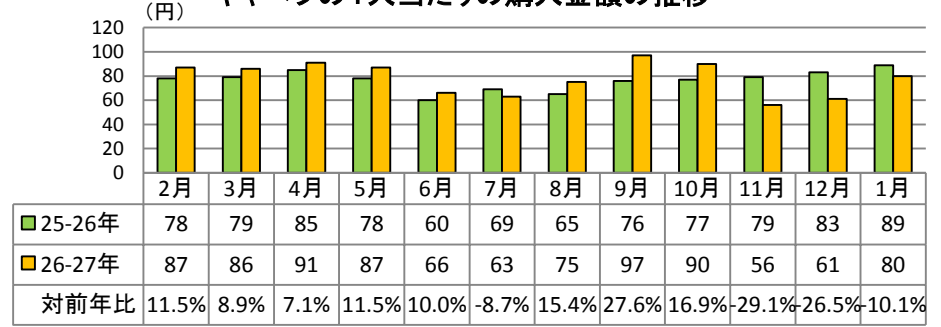


キャベツの1人当たり購入数量の推移



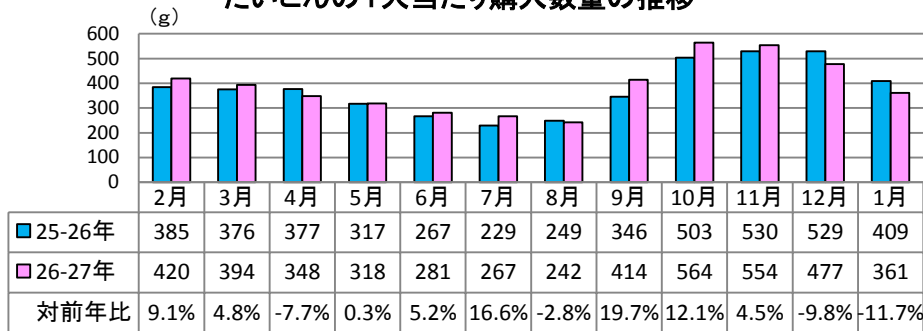
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

キャベツの1人当たりの購入金額の推移



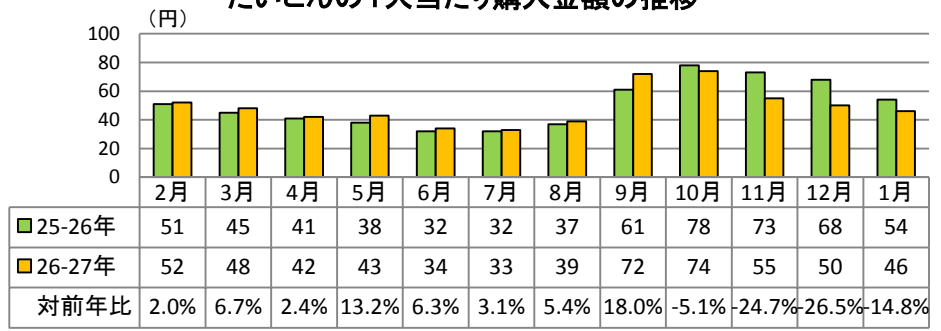
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

だいこんの1人当たり購入数量の推移



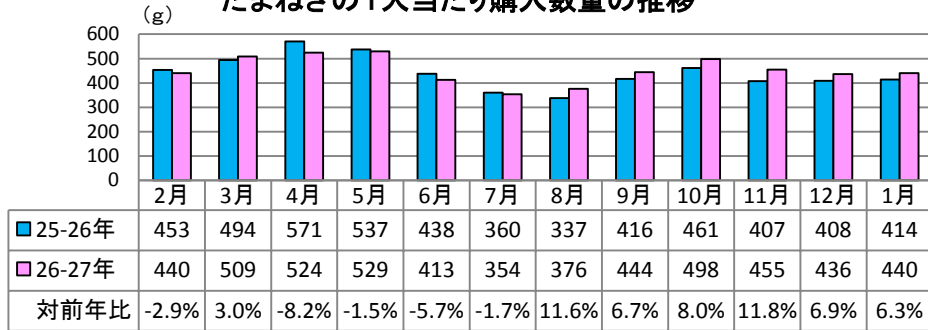
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

だいこんの1人当たり購入金額の推移



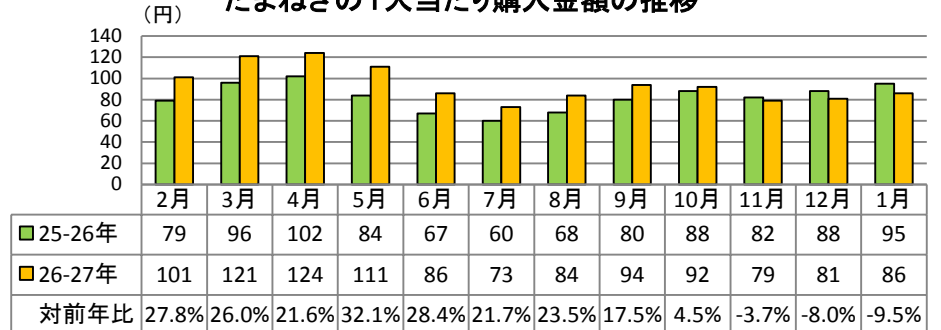
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

たまねぎの1人当たり購入数量の推移



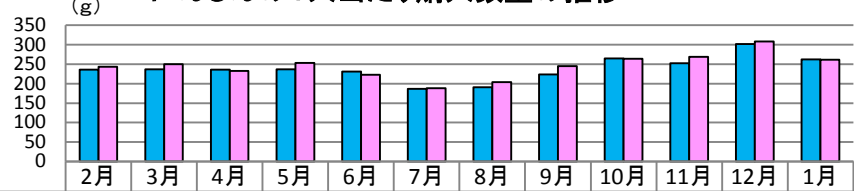
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

たまねぎの1人当たり購入金額の推移



資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

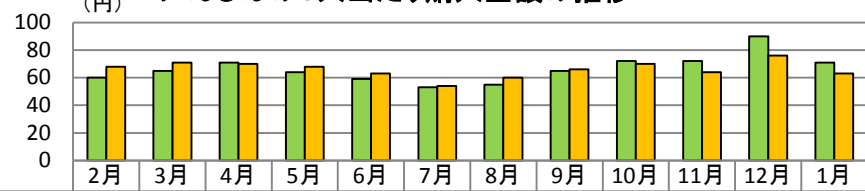
### にんじんの1人当たり購入数量の推移



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
■ 25-26年	236	237	236	237	231	187	191	224	265	252	302	262
■ 26-27年	243	250	233	253	223	188	204	245	264	269	308	261
対前年比	3.0%	5.5%	-1.3%	6.8%	-3.5%	0.5%	6.8%	9.4%	-0.4%	6.7%	2.0%	-0.4%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

### にんじんの1人当たり購入金額の推移



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
■ 25-26年	60	65	71	64	59	53	55	65	72	72	90	71
■ 26-27年	68	71	70	68	63	54	60	66	70	64	76	63
対前年比	13.3%	9.2%	-1.4%	6.3%	6.8%	1.9%	9.1%	1.5%	-2.8%	-11.1%	-15.6%	-11.3%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

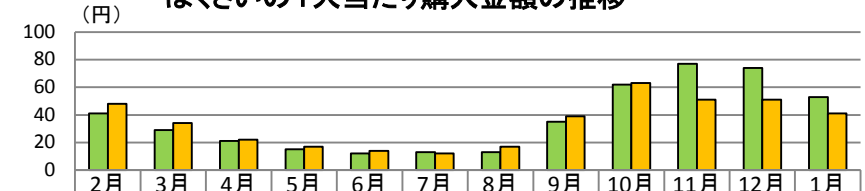
### はくさいの1人当たり購入数量の推移



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
■ 25-26年	300	193	131	98	80	63	56	162	381	503	525	365
■ 26-27年	325	216	134	111	86	68	69	152	396	499	536	375
対前年比	8.3%	11.9%	2.3%	13.3%	7.5%	7.9%	23.2%	-6.2%	3.9%	-0.8%	2.1%	2.7%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

### はくさいの1人当たり購入金額の推移



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
■ 25-26年	41	29	21	15	12	13	13	35	62	77	74	53
■ 26-27年	48	34	22	17	14	12	17	39	63	51	51	41
対前年比	17.1%	17.2%	4.8%	13.3%	16.7%	-7.7%	30.8%	11.4%	1.6%	-33.8%	-31.1%	-22.6%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

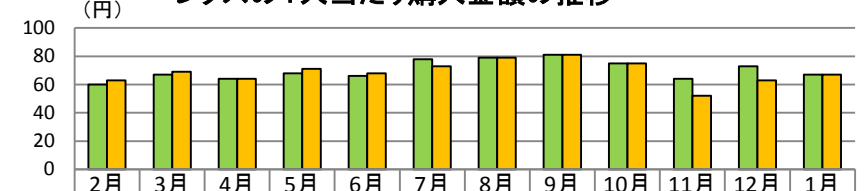
### レタスの1人当たり購入数量の推移



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
■ 25-26年	101	191	183	219	250	215	211	182	178	119	115	103
■ 26-27年	130	182	180	225	218	212	166	118	211	164	118	103
対前年比	28.7%	-4.7%	-1.6%	2.7%	-12.8%	-1.4%	-21.3%	-35.2%	18.5%	37.8%	2.6%	0.0%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

### レタスの1人当たり購入金額の推移

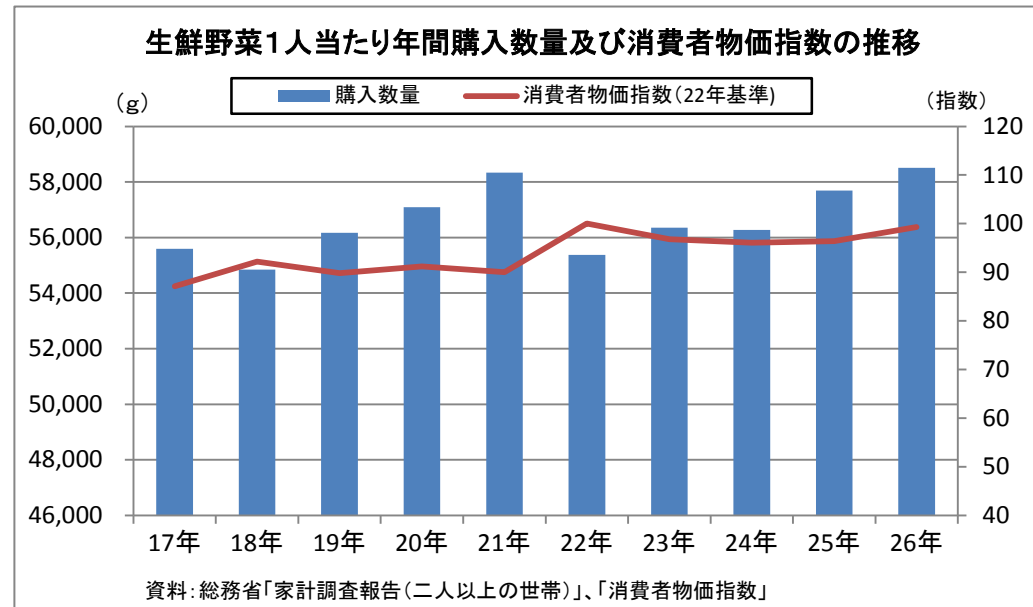


	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
■ 25-26年	60	67	64	68	66	78	79	81	75	64	73	67
■ 26-27年	63	69	64	71	68	73	79	81	75	52	63	67
対前年比	5.0%	3.0%	0.0%	4.4%	3.0%	-6.4%	0.0%	0.0%	0.0%	-18.8%	-13.7%	0.0%

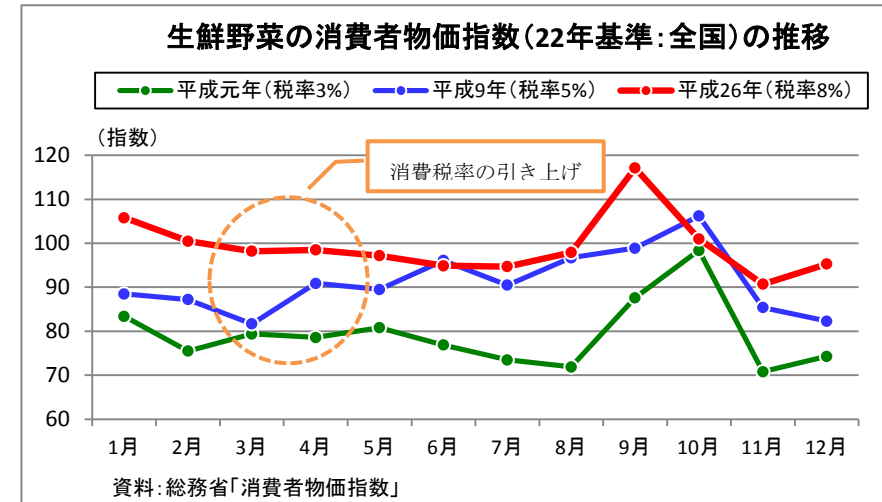
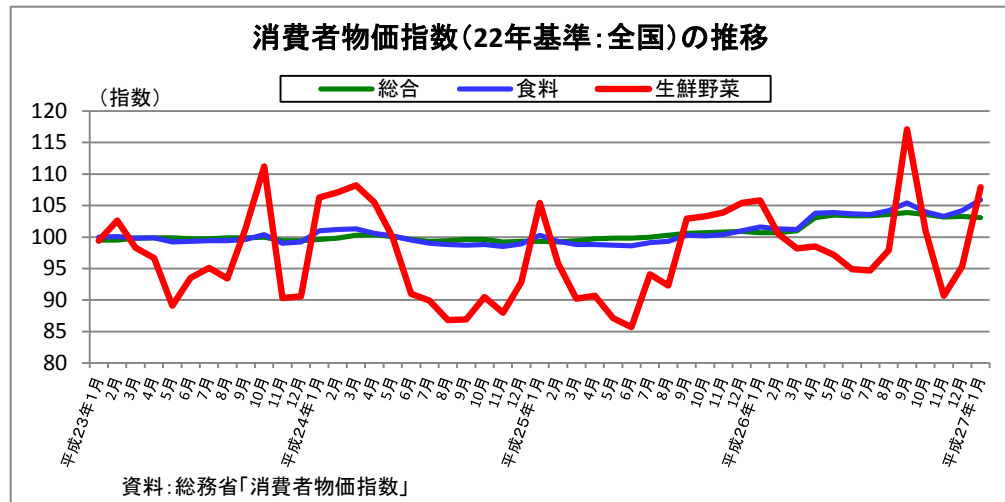
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

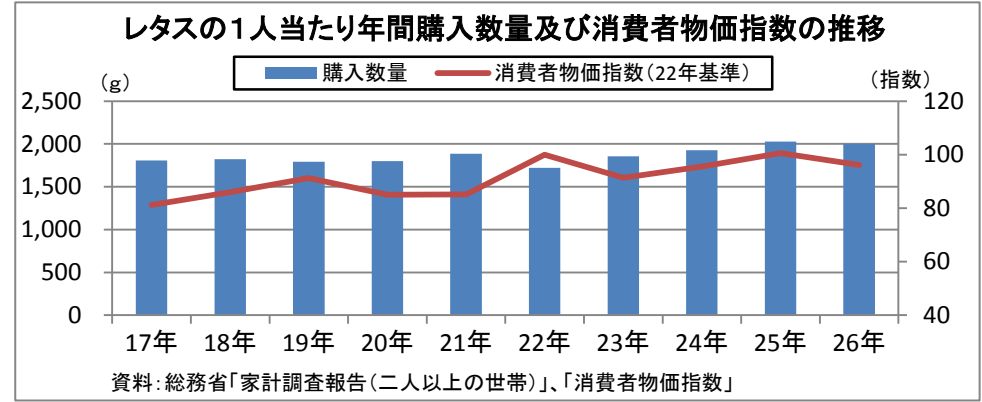
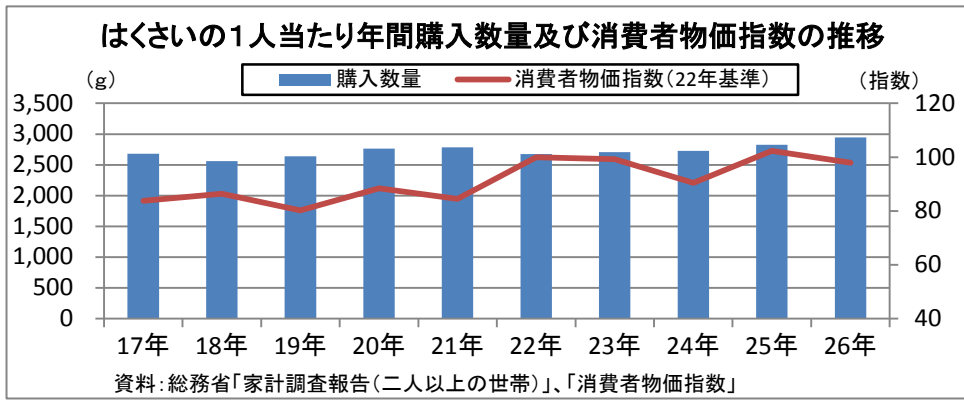
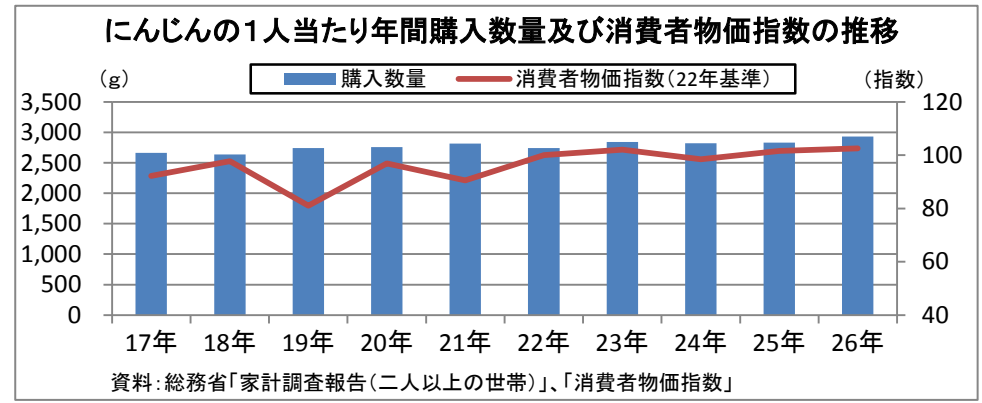
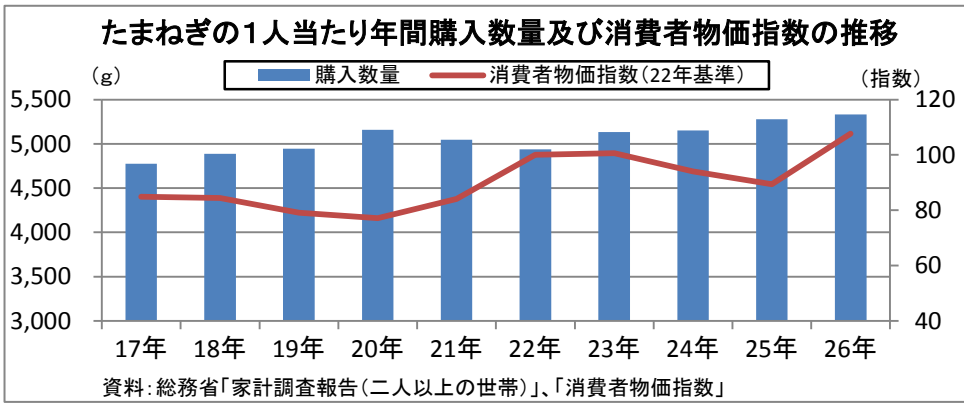
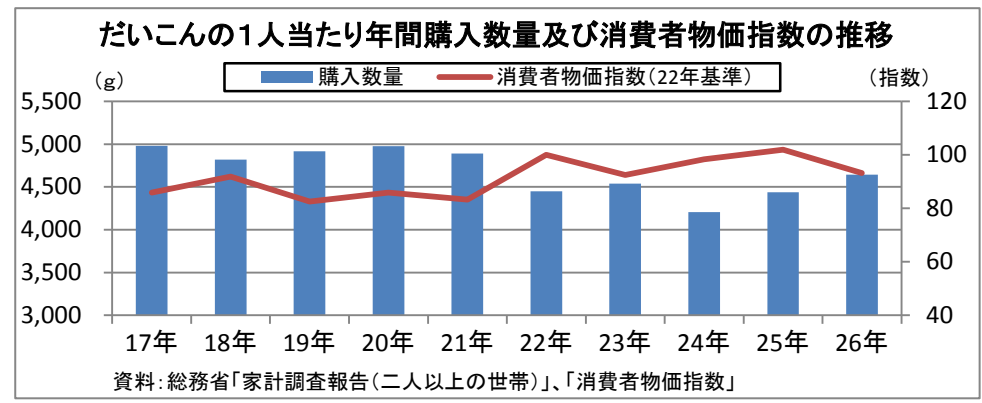
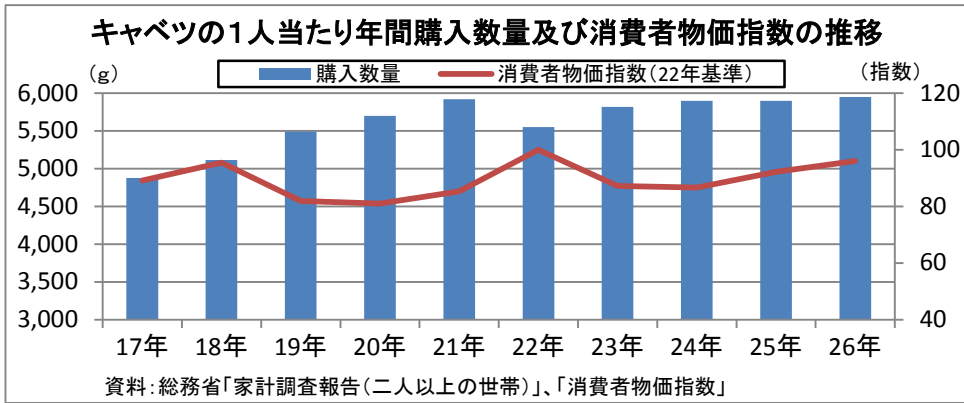
## (2) 生鮮野菜の1人当たり年間購入

- 生鮮野菜の1人当たり年間購入数量は年によって変動するものの、消費者物価指数（小売価格）が高くなると、購入数量が減少する傾向がみられた。
- 生鮮野菜1人当たり年間購入数量を品目別にみると、近年、だいこん、たまねぎ及びはくさいは増加傾向、キャベツ、にんじん及びレタスは横ばい傾向がみられた。
- 消費者物価指数については、消費税率が引き上げられた平成26年4月には、総合指数の前月比は2.1%上昇、食料指数は2.6%上昇したものの、その後は横ばいとなった。生鮮野菜指数は、4月には0.3%上昇した後、減少傾向で推移したが、夏の野菜高騰により8月及び9月は急激に上昇した。10月に入り好天などにより大幅に下落し、12月に前年並まで上昇し、その後、1月にかけて12.6%上昇した。



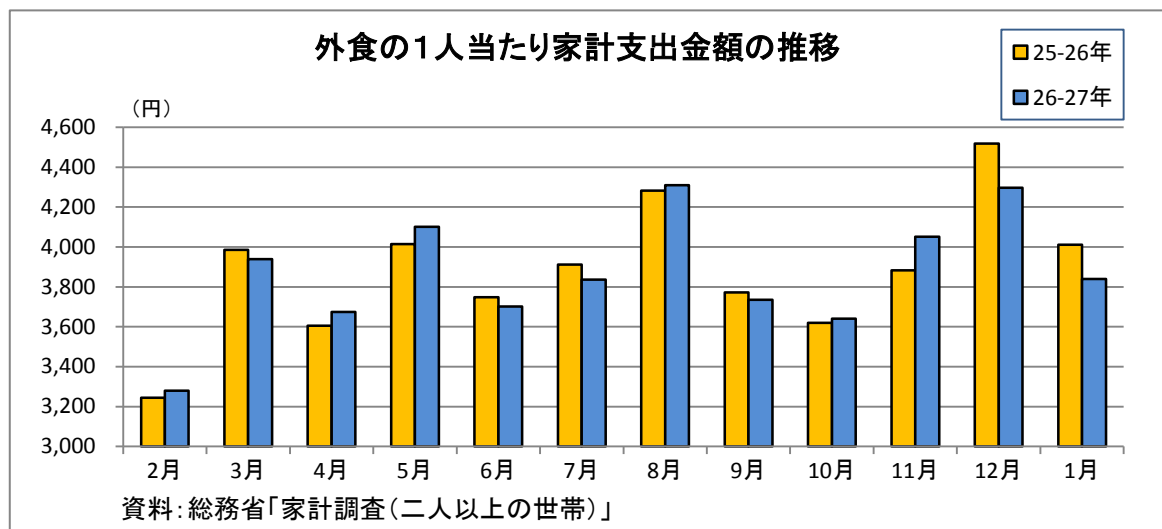
### 【参考】





### (3) 外食の支出

- 平成26～27年の外食の家計支出額は、4月及び5月は消費増税を踏まえたキャンペーンの取組により増加した。
- 9月は相次ぐ台風の上陸や12月以降は寒い日が続くなど、外食機会が減ったことにより、1人当たりの支出額は前年を下回った。



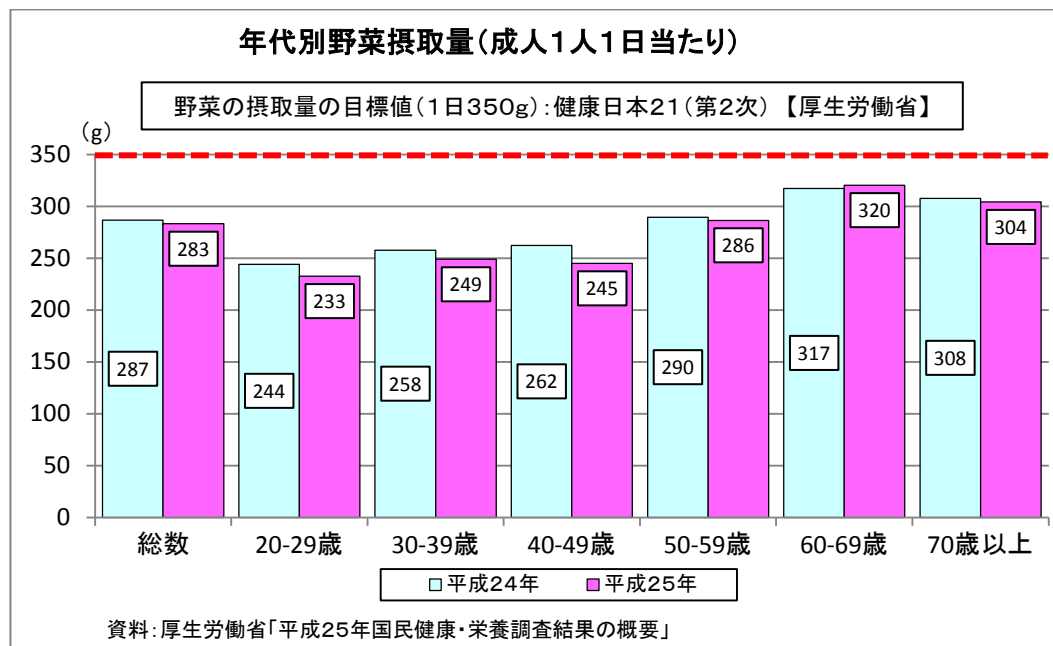
- 1月の外食の支出は、消費支出に占める割合は4.0%、前年同月比は97%であった。
- 食料支出に占める割合は17.6%、前年同月比は94%であった。

家計調査(二人以上の世帯)

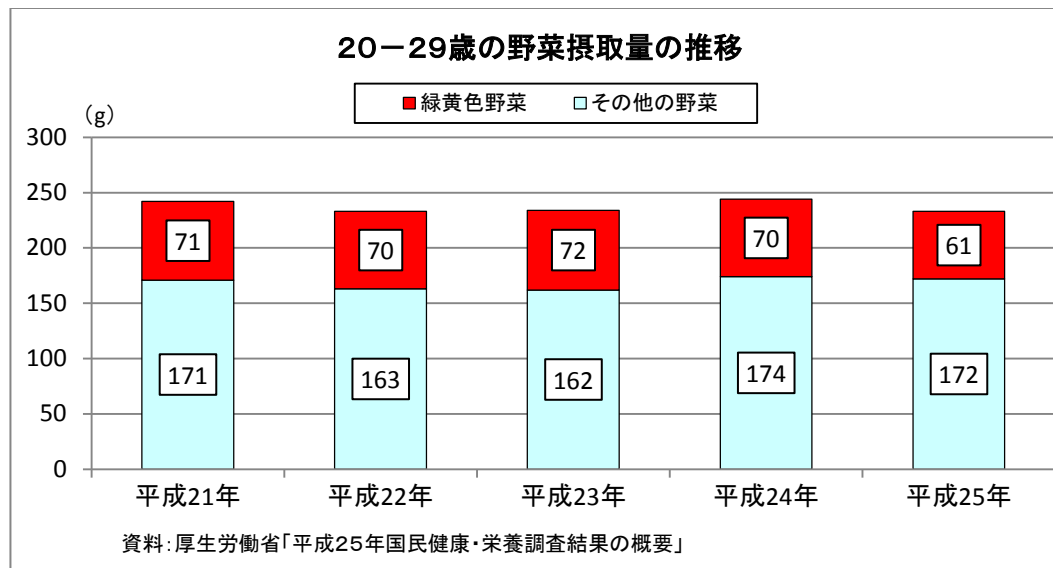
品目分類	26.1支出金額	27.1支出金額	対前年同月比
世帯人員 <①>	3.04	3.02	—
消費支出 <②>	297,070	289,847	98%
食料 <③>	65,260	65,803	101%
外食 <④>	12,195	11,596	95%
外食(1人当たり) <⑤=④/①>	4,012	3,840	96%
消費支出に占める割合(%) <⑥=④/②>	4.1	4.0	97%
食料に占める割合 <⑦=④/③>	18.7	17.6	94%

#### (4) 野菜の摂取量

- 平成25年の成人1人1日当たりの野菜摂取量は、前年に比べてわずかに減少し283グラム（前年比99%）となり、依然として、健康日本21（第2次）で示された、野菜の摂取量の目標値（1日350g）を下回っており、また、各年代別に見ても目標値に達した年代はなかった。
- 60～69歳を除いて、前年よりも野菜摂取量が減少しており、その中で、40代の野菜摂取量の減少量が大きく、また、20代が一番低い水準となっている。



- 成人の中で特に20代は、簡便化志向などもあり、野菜摂取量が一番少ないが、過去5年でみると年により増減はあるものの、ほぼ横ばい傾向で推移している。
- 平成25年については、その他の野菜はかなり減少（前年13.0%減）したものの、緑黄食野菜がわずかな減少（前年1.2%減）にとどまったことから、全体で前年をやや減少（前年4.5%減）となった。

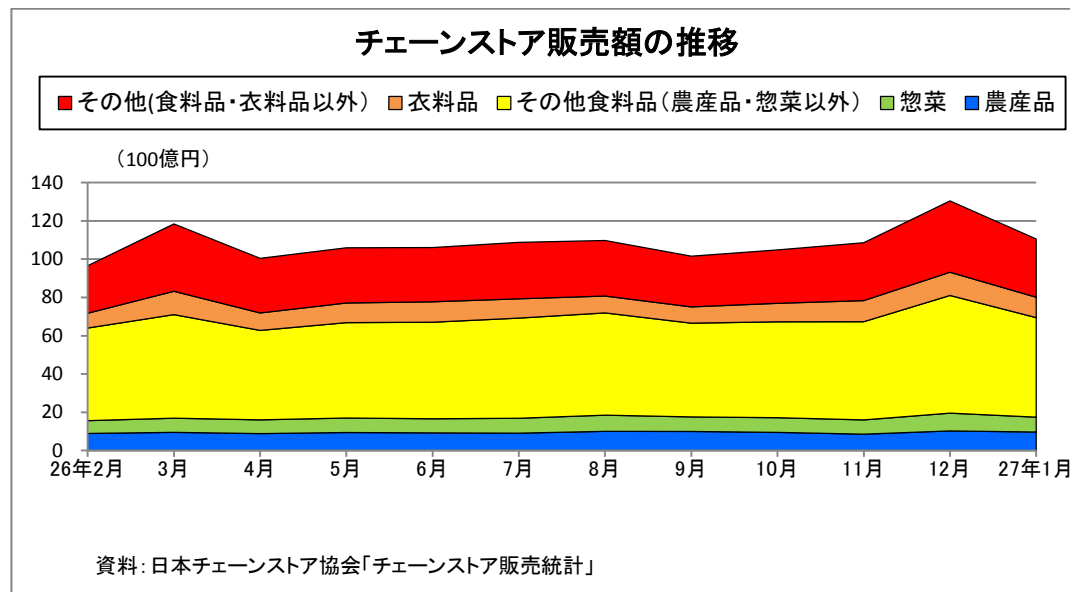




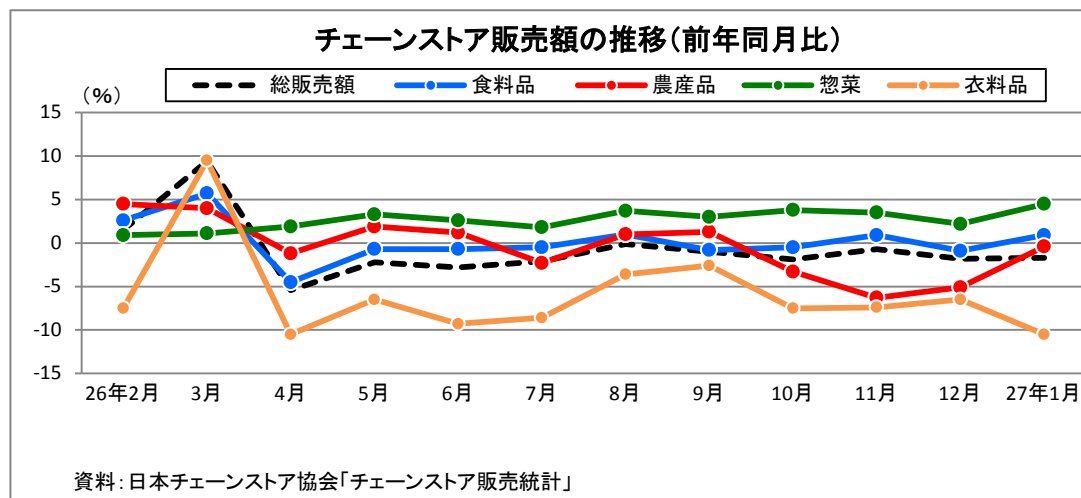
## 2. 小売の販売動向

### (1) チェーンストア

- 総販売額の最高額は12月の1兆3,042億円、最低額は2月の9,655億円であった。
- 農産品の最高額は12月の1,029億円、最低額は11月の859億円であった。
- 惣菜の最高額は12月の929億円、最低額は2月の668億円であった。
- その他の食料品（農産品、惣菜以外）の最高額は12月の6,146億円、最低額は、4月の4,672億円であった。

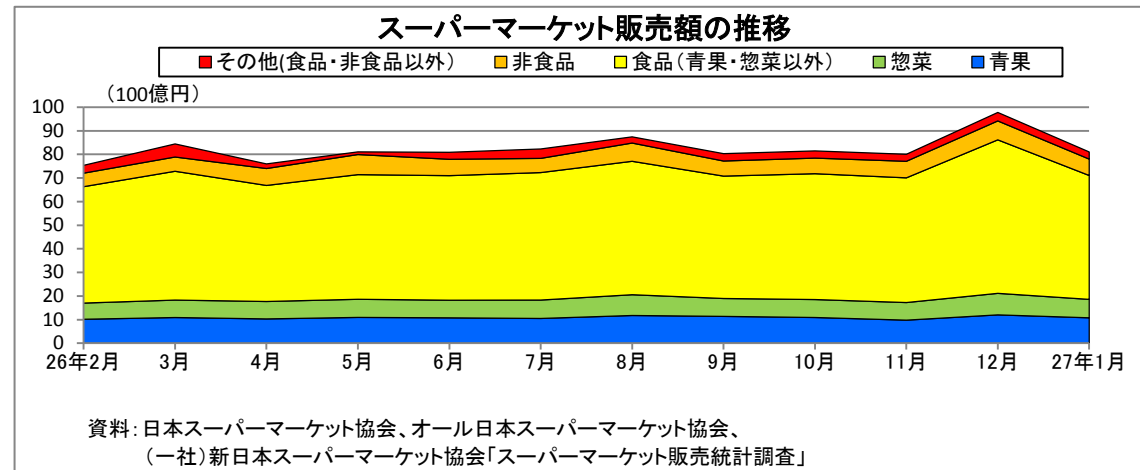


- 総販売額（前年同月比）は、平成26年3月には、消費税増税の駆け込み需要から前年同月を大幅に上回ったが、その反動等もあり4月は大幅に下回り、その後は減少幅が縮小傾向で推移した。
- 食料品については、4月は消費税増税の反動等により下回ったが、5月には回復し、その後は横ばいで推移した。
- 農産品については、食料品と同様の動向であったが、9月から11月にかけて野菜価格の下落もあり大幅に下回り、その後、年末需要もあり前年同月まで上昇した。
- 惣菜については、4月の消費税増税の反動等もなくほぼ前年を上回るなど増加傾向で推移した。

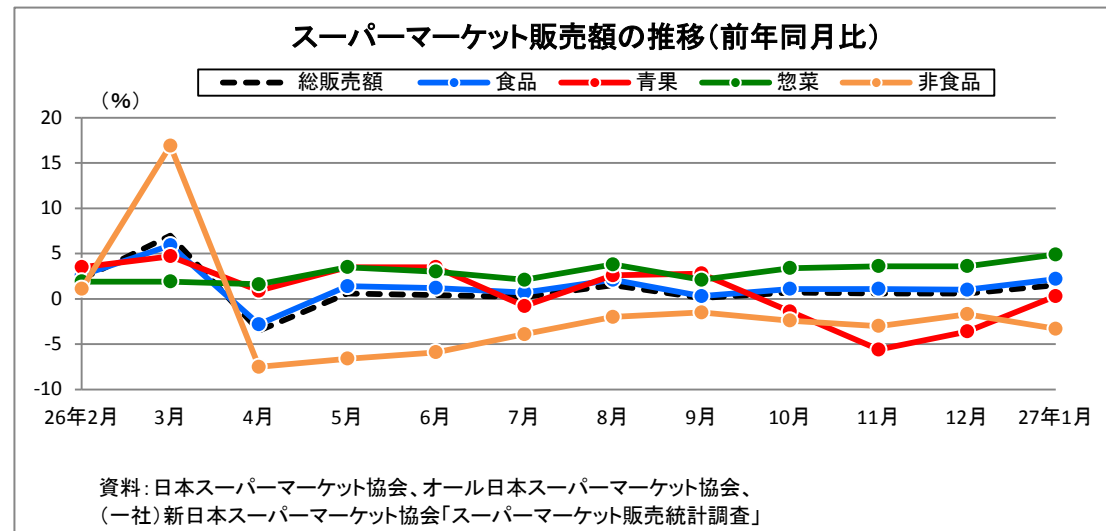


## (2) スーパーマーケット

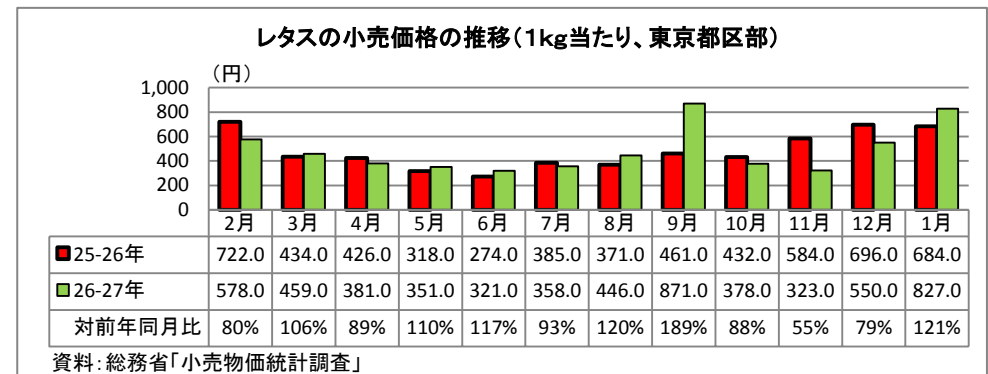
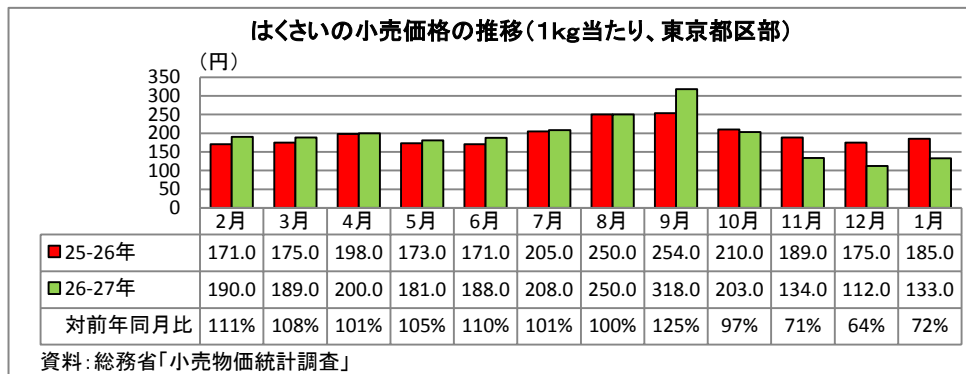
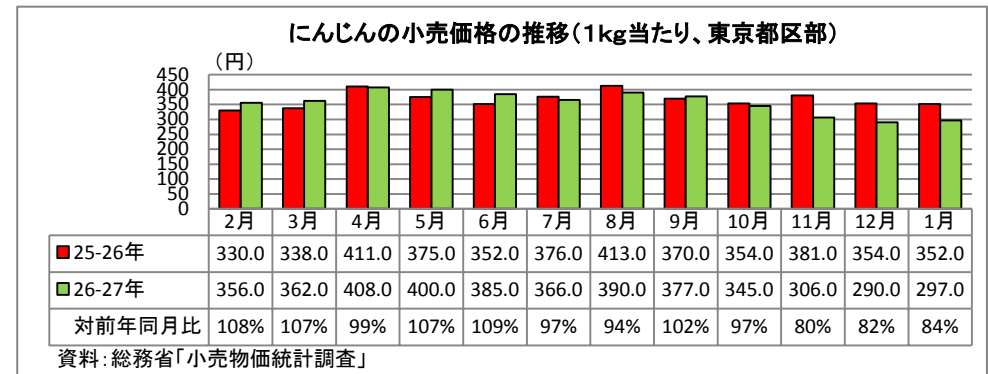
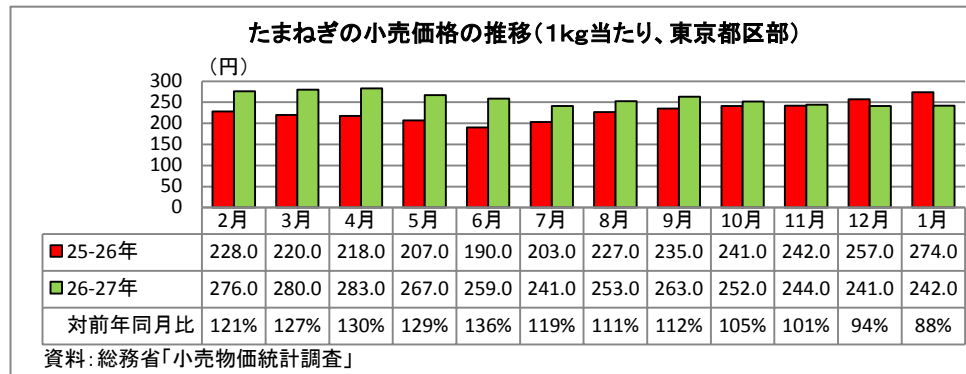
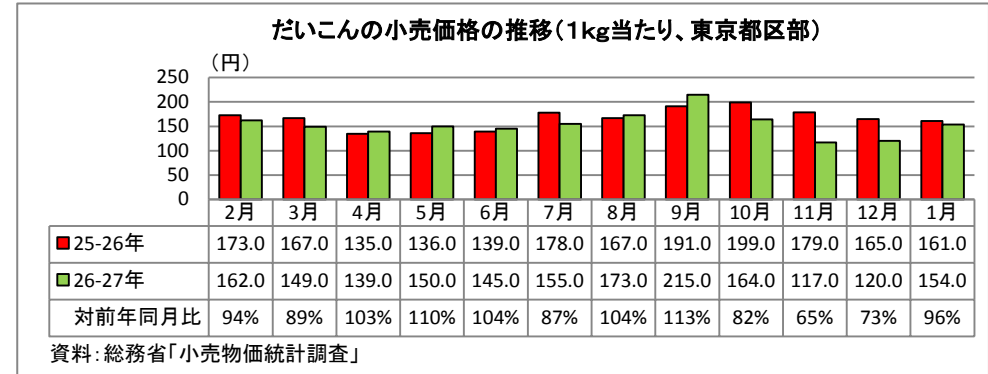
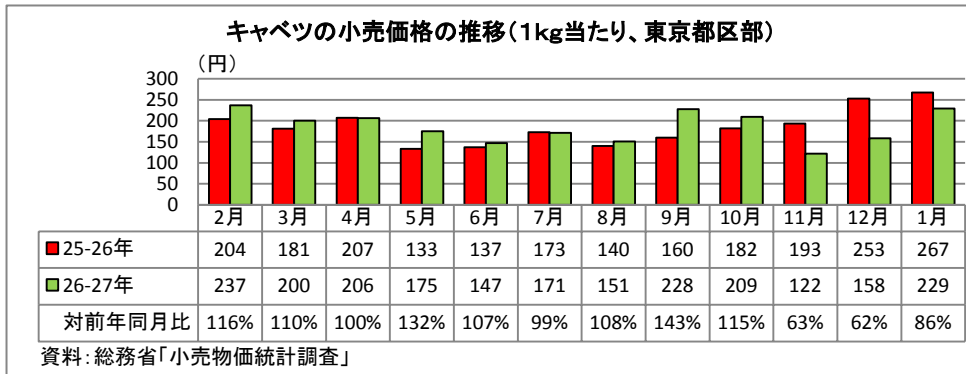
- 総販売額の最高額は12月の9,777億円、最低額は2月の7,536億円であった。
- 青果の最高額は12月の1,204億円、最低額は11月の980億円であった。
- 惣菜の最高額は12月の912億円、最低額は2月の685億円であった。
- 食品（青果、惣菜以外）の最高額は12月の6,501億円、最低額は4月の4,915億円であった。



- 総販売額（前年同月比）は、チェーンストアと同様に、3月は消費税増税の駆け込み需要から前年同月を上回ったが、その反動等もあり4月は下回り、その後は、ほぼ前年同で推移した。
- 食品については、4月は消費税増税の反動等により下回ったが、その後はほぼ前年同月並みで推移した。
- 青果については、消費税増税の影響もなく前年を上回って推移していたが、9月から11月にかけて、野菜価格の大幅な下落により、前年大きく下回ったが、その後、平成27年1月にかけて前年同まで上昇した。
- 惣菜については、消費税増税の反動等もなくほぼ前年同月を上回って推移した。

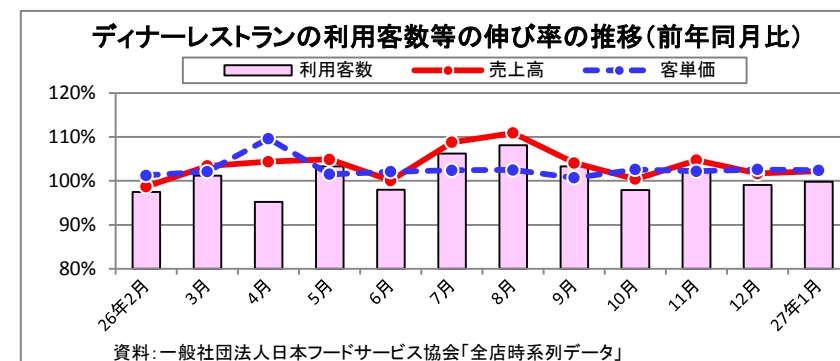
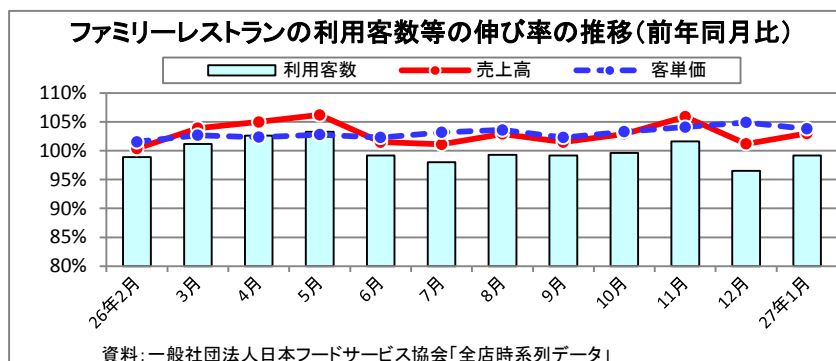
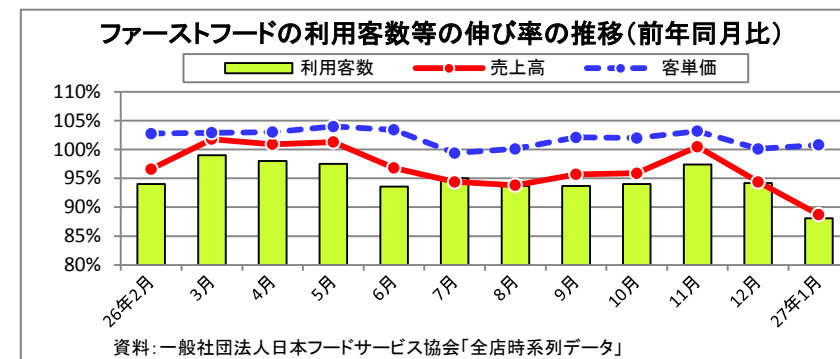
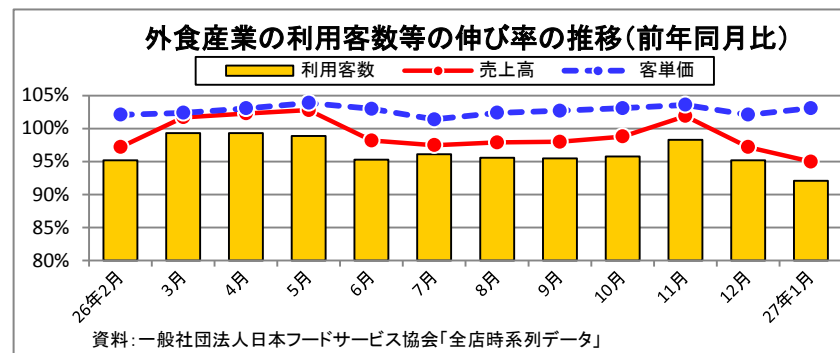


### (3) 品目別小売価格



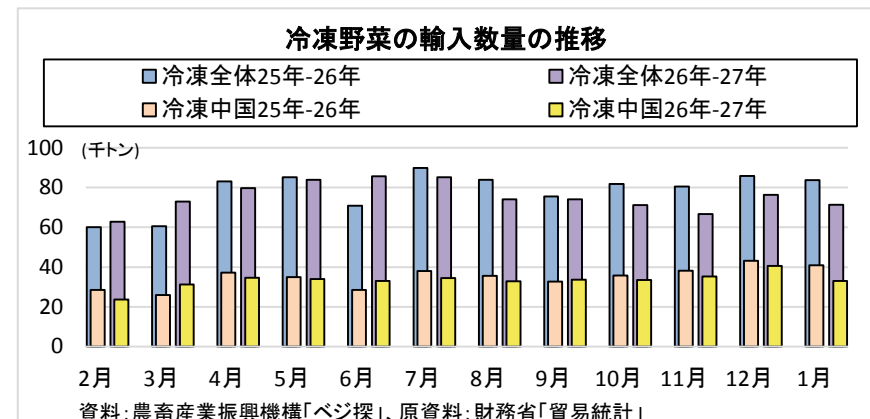
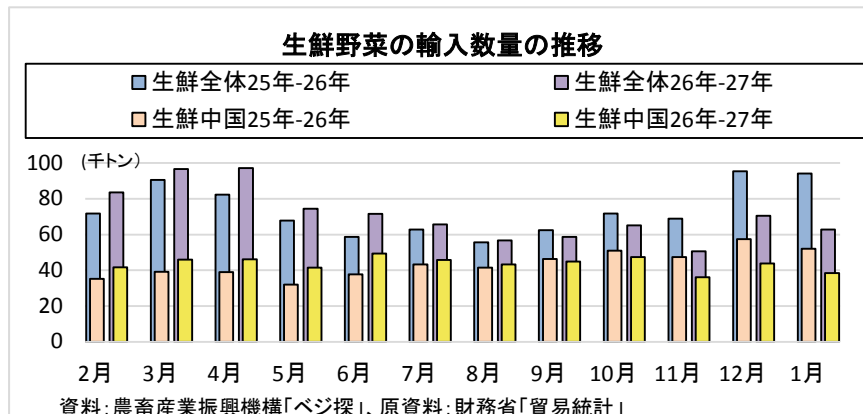
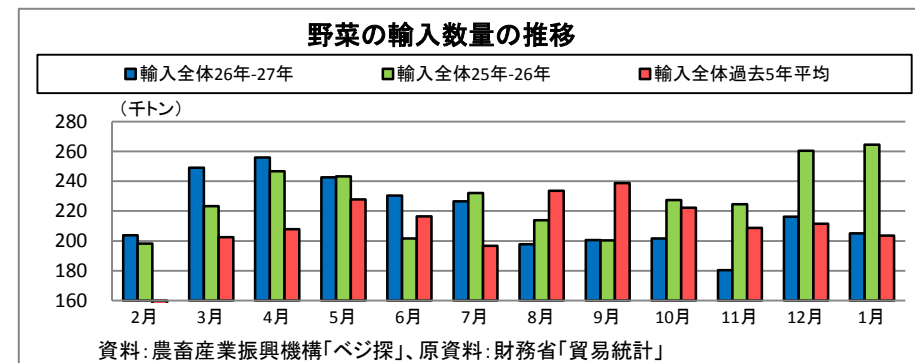
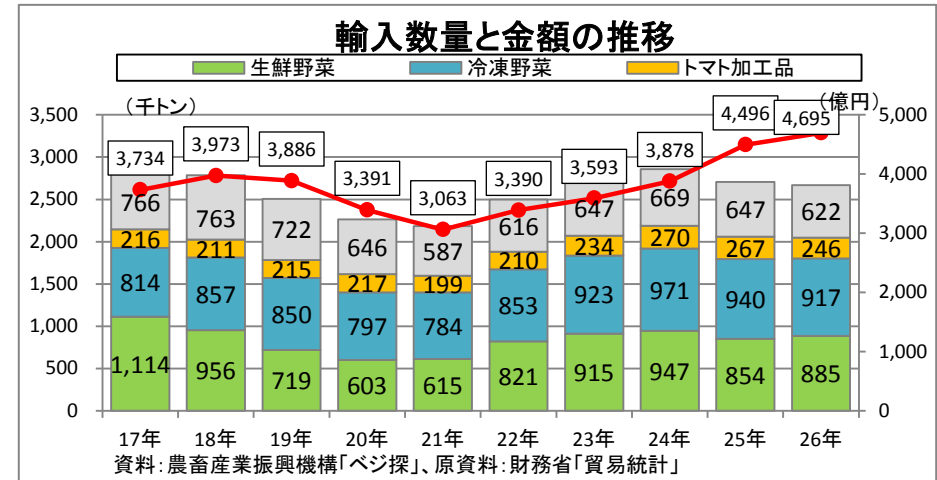
### 3. 外食の市場動向

- 外食店の利用客数は、直近1年間で見ると、全ての月で前年同月を下回った。特に2月は2度の大雪、夏場の記録的な大雨、9月以降は相次ぐ台風の上陸、12月以降は寒い日が続くなどした影響から前年同月を大幅に下回った。
  - 売上高は、利用客数同様、天候の影響等のあった2月、6月から10月及び12月以降前年同月を下回った。
  - 客単価は、昨年5月以降、21か月連続で前年同月を上回った。
- 
- 業態別では、ファストフードは、客単価はほぼ前年同月を上回ったが、7月以降、一部企業での消費期限切れの鶏肉使用問題や、12月以降の悪天候等の影響により、利用客数や売上高が前年を下回った。
  - ファミリーレストランは、悪天候等により利用客数が減少したものの、高付加価値商品等が支持され、客単価の引上げに成功するなど、売上高も前年同月を上回った。
  - ディナーレストランの利用客数は、前年を大幅に下回った月があるものの、新店効果や高付加価値型店舗の好調により、売上高や客単価はほぼ前年同月を上回った。

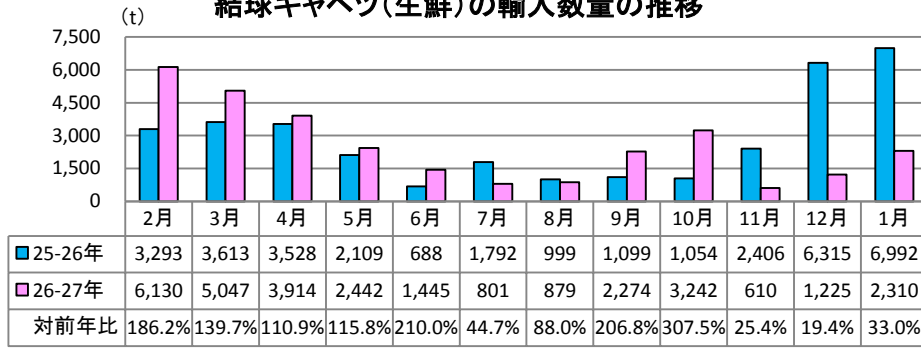


#### 4. 輸入の動向

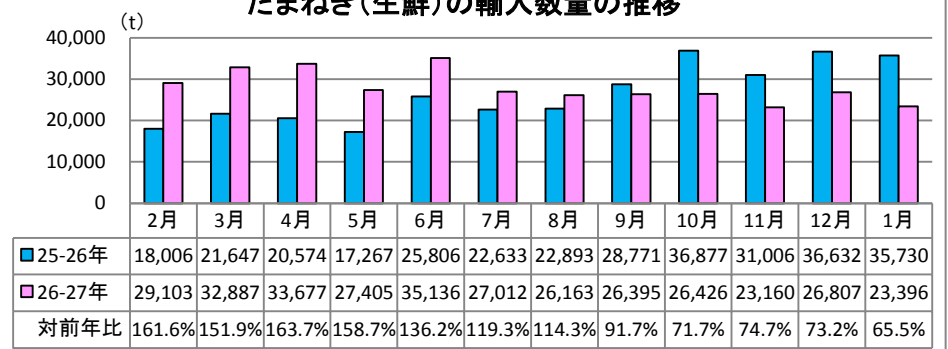
- 平成26年の野菜全体の輸入数量は、円安の影響で輸入野菜に割高感が出たこと、米国西海岸の港湾ストライキ及び中国産たまねぎの残留農薬の基準値超え問題が発覚したことなどにより、267万トンと昨年を下回った。
- 輸入金額は、円安などの影響により約4,700億円と過去最高となった。
- 類別では、生鮮野菜及び冷凍野菜の合計が野菜輸入数量の6割以上を占めた。
- 生鮮野菜の輸入量は、キャベツやたまねぎの国内産価格が一時、高値基調が続いたこと等から、6月までは前年及び平年を上回る輸入数量で推移した。10月以降は、国内産の作柄が良く相場も落ち着いたことから、前年同月を下回って推移した。
- 冷凍野菜の輸入量は、2月は低調なもの、4月以降、およそ80万トンで推移していたが、10月以降、円安などの影響もあり前年を下回って推移した。



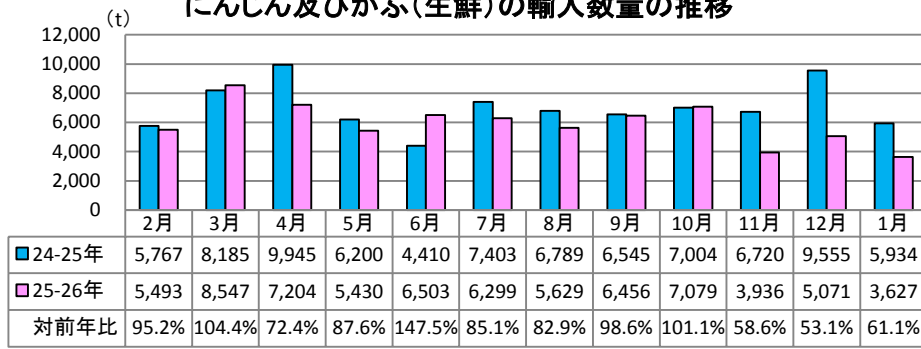
結球キャベツ(生鮮)の輸入数量の推移



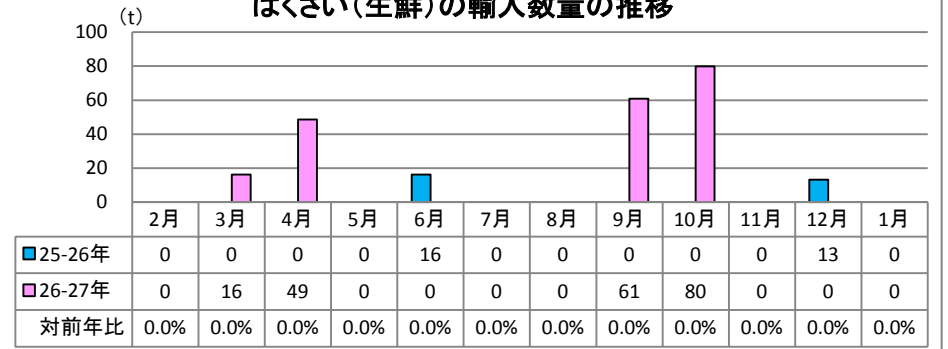
たまねぎ(生鮮)の輸入数量の推移



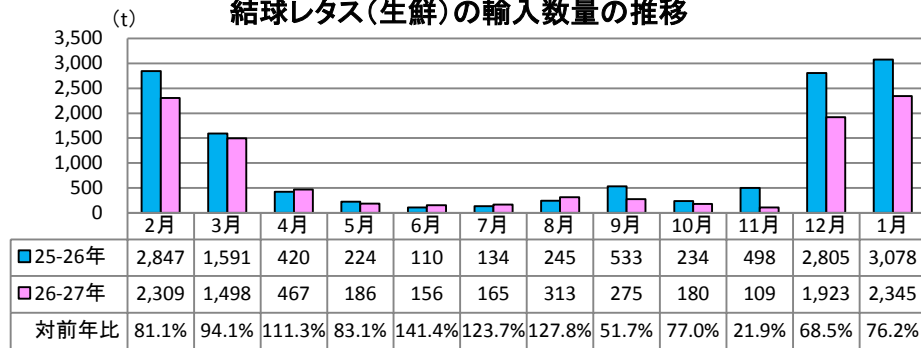
にんじん及びかぶ(生鮮)の輸入数量の推移



はくさい(生鮮)の輸入数量の推移



結球レタス(生鮮)の輸入数量の推移



資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料: 財務省「貿易統計」

5. 春野菜主要品目の主産県別生産・出荷等

資料：農林水産省「作物統計(野菜)」

○ 春キャベツ

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	9,150	4,140	378,700	336,500	100.0
1	北 海 道	1,310	4,480	58,700	53,400	15.9
2	青 森	1,260	5,180	65,300	61,800	18.4
3	岩 手	1,020	4,920	50,200	47,900	14.2
4	宮 城	879	5,040	44,300	40,400	12.0
5	秋 田	404	3,970	16,000	14,300	4.2
6	山 形	203	4,120	8,360	7,380	2.2
7	福 島	165	4,170	6,880	4,890	1.5
8	茨 城	155	3,640	5,640	4,610	1.4
9	栃 木	143	3,290	4,700	3,850	1.1
10	群 馬	142	3,940	5,590	5,010	1.5

○ 春だいこん

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	4,740	4,850	229,900	203,600	100.0
1	千 葉	1,200	5,730	68,800	62,600	30.7
2	青 森	410	5,470	22,400	20,300	10.0
3	茨 城	311	4,660	14,500	12,000	5.9
4	長 崎	268	8,180	21,900	20,500	10.1
5	熊 本	171	3,260	5,570	4,970	2.4
6	北 海 道	165	4,750	7,840	7,420	3.6
7	埼 玉	164	5,020	8,230	6,540	3.2
8	神 奈 川	109	5,150	5,610	5,060	2.5
9	福 岡	107	4,170	4,460	3,980	2.0
10	栃 木	95	4,340	4,120	3,710	1.8

○ たまねぎ

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	25,200	4,240	1,068,000	940,700	100.0
1	北 海 道	13,400	4,330	580,200	537,900	57.2
2	佐 賀	2,890	5,460	157,800	146,500	15.6
3	兵 庫	1,700	5,200	88,400	77,800	8.3
4	長 崎	763	4,030	30,700	27,700	2.9
5	熊 本	335	3,220	10,800	8,420	0.9
6	栃 木	251	5,350	13,400	11,500	1.2
7	新 潟	250	1,970	4,930	2,420	0.3
8	群 馬	232	4,520	10,500	8,820	0.9
9	山 口	214	3,090	6,610	3,750	0.4
10	神 奈 川	207	2,650	5,490	4,880	0.5

○ 春夏にんじん

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	4,550	3,740	170,100	154,200	100.0
1	徳 島	1,010	5,200	52,500	47,800	31.0
2	千 葉	717	3,730	26,700	24,200	15.7
3	青 森	637	3,560	22,700	21,500	13.9
4	長 崎	291	4,080	11,900	11,200	7.3
5	北 海 道	275	3,140	8,640	8,220	5.3
6	熊 本	225	2,430	5,470	4,970	3.2
7	埼 玉	198	3,520	6,970	6,270	4.1
8	茨 城	190	3,500	6,650	5,750	3.7
9	宮 崎	162	3,810	6,170	5,760	3.7
10	岐 阜	68	4,650	3,160	2,930	1.9

○ 春はくさい

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	1,880	6,020	113,100	102,900	100.0
1	茨 城	657	7,400	48,600	46,400	45.1
2	長 野	342	6,590	22,500	20,000	19.4
3	長 崎	191	7,840	15,000	14,000	13.6
4	熊 本	128	3,910	5,000	4,680	4.5
5	鹿 児 島	70	4,040	2,820	2,340	2.3
6	大 分	57	3,880	2,210	1,880	1.8
7	岡 山	47	4,920	2,320	1,930	1.9
8	宮 崎	37	4,080	1,510	1,320	1.3
9	北 海 道	35	5,340	1,890	1,620	1.6
10	愛 知	35	4,610	1,610	1,480	1.4

○ 春レタス

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	4,330	2,660	115,000	107,500	100.0
1	茨 城	1,470	2,570	37,800	36,700	34.1
2	長 野	533	3,340	17,800	17,000	15.8
3	兵 庫	396	2,640	10,500	9,960	9.3
4	福 岡	237	2,000	4,740	4,430	4.1
5	長 崎	191	3,880	7,410	6,950	6.5
6	香 川	159	2,450	3,900	3,580	3.3
7	群 馬	117	3,510	4,110	3,780	3.5
8	熊 本	86	2,840	2,440	2,250	2.1
9	栃 木	84	2,430	2,050	1,960	1.8
10	千 葉	82	2,010	1,640	1,450	1.3